⑲ 親孝行の与吉

むかしあっただど。

あるところに大変親孝行な与吉という十五歳の若者がいただど。母は病気で長い間、床に伏せていたんだど。

ある時、北の方にある沼の浮草の実がなぁ、母の病に良く効くと聞いてな、居ても立っても、居られなぐなっただど。

ただ、母の病を一日でも早く治したいと思って、お上の厳しい高札も、掟も目にも耳にも入らず、母にも話さず、浮草の実を取ってきて母に与えたんだど。

一回、二回とな、度重なって遂に、お上に知れることとなったんだど。

与吉は、御奉行様の呼び出しに、白州[注1]に平身低頭震えるばかりであっただど。

「これ、お上の掟を破った大罪人、与吉に相違ないか。」